

人口減少都市における地域幸福度(Well-Being)の在り方  
-北海道夕張市における集約型コンパクトシティ研究 その32-

正会員 ○大庭 妙子\*  
同 瀬戸口 剛\*\*  
同 和田 彩花\*\*\*  
同 香川 菜緒\*\*\*\*

ウェルビーイング 地域幸福度 (Well-Being) 指標  
人口減少都市 コンパクトシティ

1. 研究の背景と目的

昨今では、身体的・精神的・社会的に健康な状態を表す Well-Being (以下、WB) の考え方が広まっており、心理学や医学、行動経済学といった分野で多くの研究が行われている<sup>1)</sup>。都市計画や公共政策の領域においても、住民の WB を実現することを目標に掲げる自治体が増加している。特に、人口減少が進む地方小都市においては、人口拡大期の量的拡大を重視する考え方から、質的な充実を図る WB の考え方へ転換しつつある。しかしながら、こうした地方小都市における、WB の具体的な実態は十分に明らかになっていない。

そこで本研究では、国内でも特に深刻な財政的課題と人口減少問題を抱える北海道夕張市を対象に、地域幸福度 (Well-Being) 指標 (以下、WB 指標) を用いて住民への調査を行うことで、人口減少都市における WB の特徴とその在り方を明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、住民の「暮らしやすさ」と「幸福感 (WB)」を数値化・可視化した WB 指標<sup>2)</sup>を用いる。

①夕張市の住民を対象としてアンケート調査を行い、WB 指標の各項目を全国平均、北海道平均と比較することで、夕張市における特徴的な指標を抽出した。

②市民へ WB に関するヒアリング調査を実施。共起ネットワーク図を用いて世代ごとの頻出語とその関連語を整理することで、各世代の WB に関連するキーワードおよび指標を抽出した。

③ ①②の結果とヒアリング結果より、夕張市における特徴的な WB 指標について、その具体的な実態を明らかにした。

④以上を踏まえて、夕張市における WB の特徴とその実現に向けた方向性を考察する。

3. アンケート調査による夕張市の特徴的な WB 指標

アンケート調査は、2025 年 7~8 月に実施された夕張市総合計画アンケート調査 (表 1) の結果を用いる。高校生を除いた夕張市住民を対象としており、回収率は 25%で

あった。

2025 年度版 Well-Being 全国調査から算出した全国および北海道内平均の値と夕張市におけるアンケート結果を比較することで、夕張市の特徴的な WB 指標を明らかにした。

表 1 アンケート・ヒアリング調査の概要

	夕張市総合計画アンケート	ヒアリング調査																																								
期間	2025 年 7-8 月	2025 年 9-11 月うち 8 日間																																								
対象者	夕張市住民 (高校生を除く)	夕張市住民 (高校生を含む)																																								
方法	無記名自記式質問紙調査	公共施設等における利用者・関係者への対面ヒアリング																																								
内容	WB 指標を用いた生活評価	居住意向・日常の幸せ等																																								
結果	配布数 1044、回収数 261 回収率 25.0%	ヒアリング数: 167 名 (複合拠点施設りすた 118 名 夕張高校 29 名 ゆうばり文化スポーツセンター 20 名)																																								
年齢	<table border="1"> <caption>アンケート調査の年齢構成 (N=261)</caption> <tr><th>年齢</th><th>割合</th></tr> <tr><td>80歳以上</td><td>3.6%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>13.8%</td></tr> <tr><td>60歳代</td><td>13.0%</td></tr> <tr><td>50歳代</td><td>18.0%</td></tr> <tr><td>40歳代</td><td>14.6%</td></tr> <tr><td>30歳代</td><td>13.8%</td></tr> <tr><td>20歳代</td><td>14.6%</td></tr> <tr><td>10歳代</td><td>1.5%</td></tr> <tr><td>無回答</td><td>1.9%</td></tr> </table>	年齢	割合	80歳以上	3.6%	70歳代	13.8%	60歳代	13.0%	50歳代	18.0%	40歳代	14.6%	30歳代	13.8%	20歳代	14.6%	10歳代	1.5%	無回答	1.9%	<table border="1"> <caption>ヒアリング調査の年齢構成 (N=167)</caption> <tr><th>年齢</th><th>割合</th></tr> <tr><td>不明</td><td>0.6%</td></tr> <tr><td>80歳以上</td><td>29.3%</td></tr> <tr><td>70歳代</td><td>19.2%</td></tr> <tr><td>60歳代</td><td>8.4%</td></tr> <tr><td>50歳代</td><td>4.8%</td></tr> <tr><td>40歳代</td><td>4.2%</td></tr> <tr><td>30歳代</td><td>2.4%</td></tr> <tr><td>20歳代</td><td>3.0%</td></tr> <tr><td>10歳代</td><td>28.1%</td></tr> </table>	年齢	割合	不明	0.6%	80歳以上	29.3%	70歳代	19.2%	60歳代	8.4%	50歳代	4.8%	40歳代	4.2%	30歳代	2.4%	20歳代	3.0%	10歳代	28.1%
年齢	割合																																									
80歳以上	3.6%																																									
70歳代	13.8%																																									
60歳代	13.0%																																									
50歳代	18.0%																																									
40歳代	14.6%																																									
30歳代	13.8%																																									
20歳代	14.6%																																									
10歳代	1.5%																																									
無回答	1.9%																																									
年齢	割合																																									
不明	0.6%																																									
80歳以上	29.3%																																									
70歳代	19.2%																																									
60歳代	8.4%																																									
50歳代	4.8%																																									
40歳代	4.2%																																									
30歳代	2.4%																																									
20歳代	3.0%																																									
10歳代	28.1%																																									

表 2-A における 6, 20, 21, 22, 27, 29, 30, 31, 37, 38, 39, 41 番の指標は全国・北海道内平均よりポイントが高い。これは、住宅・自然環境や地域の人間関係、健康状態に関する指標であり、満足度が高いといえる。

一方で、1, 3, 4, 8, 12, 14, 18 番の指標は全国・北海道内平均より 1 ポイント以上低い。これらは医療、買い物、飲食、娯楽、公共交通についての指標であり生活利便性に対する満足度が低いことがわかる。

4. ヒアリング調査による夕張市の WB の具体化

4.1 年代別の WB を実現するキーワード

ヒアリング調査は、2025 年 9~11 月の 8 日間に実施した。夕張市内の公共施設等の利用者・関係者のうち 168 名を対象に、半構造化形式で調査した。質問では、居住意向・

表2 地域幸福度（Well-Being）指標を用いたアンケートの結果

番号	WB 指標	A			B 関心の数
		夕張	全国平均	道内平均	
①	医療機関が充実している	2.1	3.3	3.2	7
2	介護・福祉施設のサービスが受けやすい	2.8	3.1	3.1	1
③	日常の買い物に全く不便がない	1.9	3.5	3.5	9
④	飲食を楽しめる場所が充実している	1.6	3.1	3.1	3
5	自宅には、心地のいい場所がある	3.6	3.6	3.7	1
⑥	自宅の近辺では、騒音に悩まされている（逆）	4.0	3.5	3.6	6
7	適度な費用で住宅を確保できる	2.9	3.2	3.2	2
⑧	楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	1.6	2.6	2.6	12
9	子育て支援・補助が手厚い	2.4	2.9	2.9	2
10	子どもたちがいきいきと暮らせる	2.5	3.2	3.1	4
11	教育環境（小中高校）が整っている	2.6	3.3	3.4	8
⑫	通学しやすい場所に学校がある	2.2	3.4	3.4	2
13	夕張市の行政は、地域のことを真剣に考えていると思う	2.6	3.0	2.9	1
⑭	公共交通は使い勝手がよく便利である（※1）	1.7	2.9	2.8	21
15	行政サービスのデジタル化が進んでいる	2.4	2.9	2.9	0
16	仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	2.3	2.9	2.9	3
17	夕張市の雰囲気は自分にとって心地よい	3.1	3.4	3.4	6
⑮	街中・公園・川沿い等で、心地よく歩ける場所がある	2.4	3.4	3.4	4
19	自慢できる都市景観がある	2.2	2.9	3.0	0
⑳	自慢できる自然景観がある	3.3	3.2	3.2	6
㉑	身近に自然を感じることができる	4.1	3.5	3.6	22
㉒	空気や水は澄んでいてきれいだと感じる	4.2	3.3	3.6	3
23	リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取り組みが盛んである	2.6	3.0	3.0	0
24	防犯対策がしっかりしている	2.7	3.0	3.0	0
25	防犯対策が整っており、治安が良い	2.6	3.0	3.0	0
26	歩道や信号が整備されていて安心だ	2.9	3.1	3.3	0
27	私は、同じ市内に住む人たちに信頼している	3.3	3.1	3.1	17
28	地域活動への市民参加が盛んである	2.8	2.9	2.8	12
㉙	困ったときに相談できる人が身近にいる	3.3	2.8	2.7	5
⑳	私は市内の人が困っていたら手助けをする	3.5	3.1	3.1	6
㉑	私は、夕張市に対して愛着を持っている	3.4	3.0	3.0	8
32	この夕張市には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	2.6	2.8	2.8	2
33	私は、見知らぬ他者であっても信頼する	2.2	2.4	2.4	1
34	私は、市内の人が自分をどう思っているのかが気になる	2.3	2.6	2.5	0
35	夕張市には、女性が活躍しやすい雰囲気がある	2.5	2.7	2.8	0
36	夕張市には、若者が活躍しやすい雰囲気がある	2.2	2.7	2.7	1
㉓	自分のことを好ましく感じる	3.2	3.0	3.0	0
㉔	私は、身体的に健康な状態である	3.4	3.1	3.1	7
㉕	私は、精神的に健康な状態である	3.4	3.2	3.3	0
40	夕張市は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	2.6	2.8	2.7	7
㉖	将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	3.8	3.4	3.4	2
42	夕張市には、学びたいことを学べる機会がある	2.5	2.9	2.9	5
43	夕張市では、やりたい仕事を見つけやすい	1.8	2.6	2.5	5
44	夕張市では適切な収入を得るための機会がある	2.0	2.7	2.6	1
45	夕張市には、新たな事に挑戦・成長するための機会がある	2.2	2.6	2.7	3

【凡例】

番号：WB 指標上の分類 ■生活環境 ■地域の間人関係 ■自分らしい生き方  
WB 指標：全国平均と夕張平均の差 ■-0.9未満 ■-0.9以上-0.3未満  
■-0.3以上0.3未満 ■0.3以上0.9未満 ■0.9以上

日常の幸せ・夕張市の魅力などを尋ねた。協力者の年齢構成は表1の通りであり、20代～50代の勤労世代への調査が不足していることが課題である。

アンケート調査では全体の傾向を掴むことが目的であったのに対して、ヒアリング調査では、さらに踏み込んで夕張市の生活における特徴を具体的に明らかにすることを目的とした。

ヒアリング調査（表1）の結果を元に作成したテキストデータを用いて、世代別に共起ネットワーク図を作成した（図1）。

全年代で共通して出現頻度が高かった語は「人」であり、関連する指標には27,29,30番がある。

10代は、「学校」「高校」という教育に関する語や、「バス」「車」という移動・交通に関する語が見られた。教育に関する指標として、11,12,42番、交通に関する指標として14番が関連付けられる。

20・30代は、「車」という交通に関する語や、「自然」「好き」という語の共起が見られた。これらに関連する指標は14,20,21,22番である。

40・50代は、「市民」「活動」という語が共起していることから、市民の地域活動についての28番の指標を抽出した。また、「体」「健康」という語が共起していることから、健康状態についての38,39番の指標が関連している。

60・70代は、「病院」「元気」「買い物」「バス」「車」という語が見られた。1,3,14番の指標と関連しているといえる。

80代以上は、「炭鉱」や「観光」といった地域の特徴に関する語や「夕張」「好き」「楽しい」という語が共起していることから、愛着についての31番を抽出した。また「病院」という語も確認された。

4.2 WBを実現するための具体的な視点

ヒアリング調査により住民から得た発言数（表2-B）を指標ごとに整理した。発言数の多い順に、21(22回),14(21回),27(17回),28(12回),8(12回),であった。これらは、自然環境、公共交通、地域の間人関係、娯楽に関する指標であり、関心が高いことがうかがえた。

3章、4.1節で明らかとなった夕張市における特徴的なWB指標について、ヒアリングで得られた発言を要約した（表3）。

5. 夕張市におけるWBの特徴と今後の在り方

夕張市住民は、自然環境や人間関係への満足度が高い。特に、人口が少ないからこそ生まれる人同士のつながりの強さや日常生活での助け合いを地域の良さとして捉えている。一方で、交通および医療、日常的な買い物について満足度が低く、生活利便性の面で課題を感じていることが明らかになった。

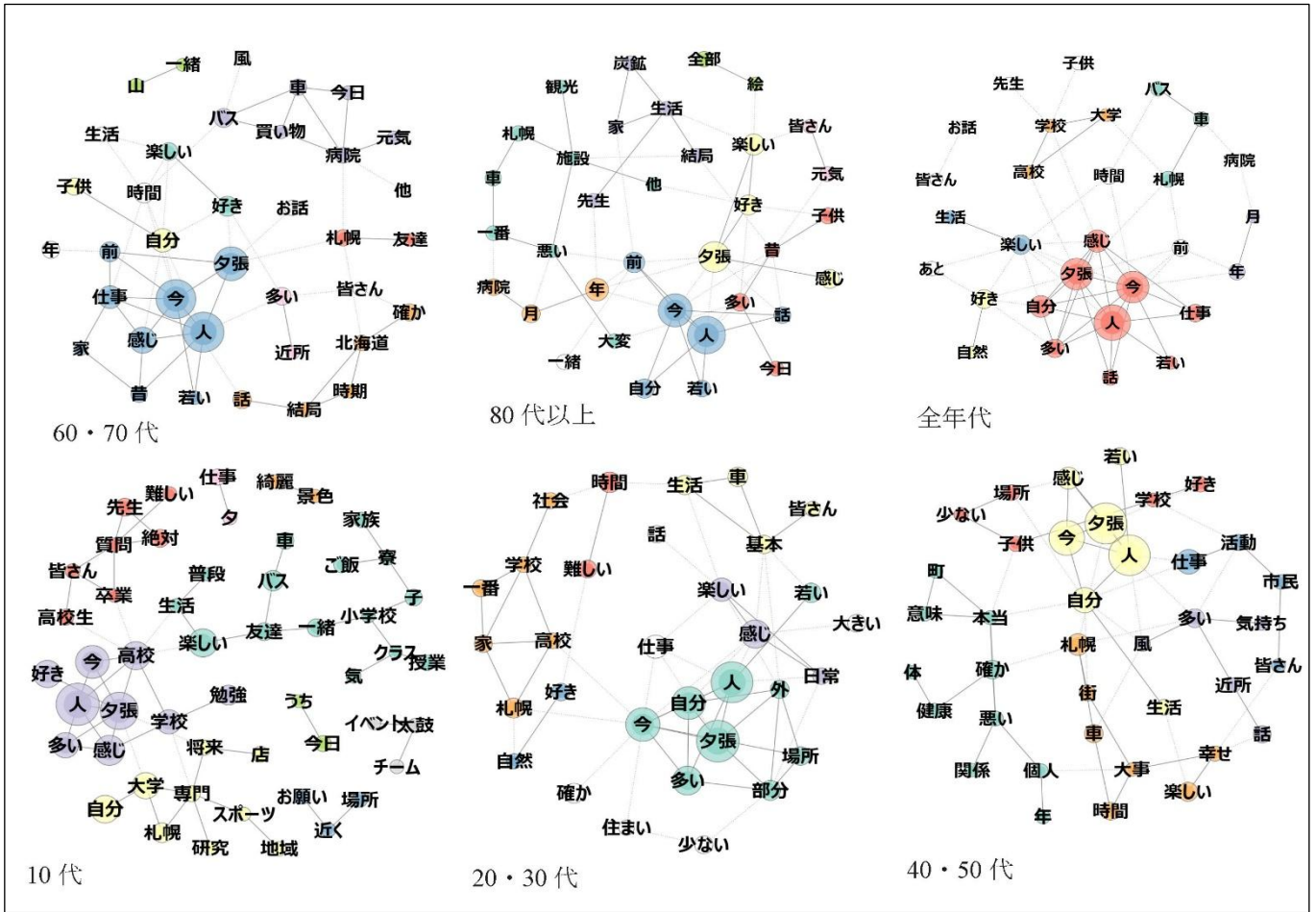


図1 ヒアリング結果の年代別共起ネットワーク図

10代は、学校での友人付き合いに日常的な幸せを感じており、また高校生には学校のカリキュラムに強い魅力を感じている人がいる。一方で、公共交通の不便さに課題を感じている。

20・30代は、子育てをする上での地域の人とのやり取りに日常的な幸せを感じている。一方で、娯楽施設の少なさに課題を感じている人もいるが、市外に出かける楽しみが増えるとして肯定的に捉えている人もいる。

40・50代は、自身や家族の健康が幸せに生きるために必要だと感じている。一方で、緊急時の子どもの医療体制、高校進学による子どもとの別居に課題を感じている。

60・70代は、公共施設でのサークル活動に複数所属し、仲間との会話や活動を日常的な幸せと感じている。一方で、買い物や医療、公共交通に課題を感じている。

80代以上は、60・70代と同様に人付き合いに魅力を感じている。一方で、公共交通へアクセスしづらいことから、移動に不安を抱える人が多い。自動車の乗り合いなどの相互扶助も行われている。

以上の分析結果より、夕張市におけるWBは、地域の間人間関係に基づく幸福と生活利便性に関する課題という二つの側面から構成されていると考えられる。特に注目す

べき点は、人口減少という制約が必ずしもWBの低下に直結していない点である。むしろ、人口規模の縮小により人間関係が密になり、相互扶助やコミュニティの結束が強化されることで、WBが維持・向上している可能性が示唆される。

一方で、医療や買い物、交通といった生活基盤であるサービスの不足は依然として大きな課題であり、特に高齢化が進む中でその重要性はさらに高まると考えられる。

したがって、今後の政策においては、地域コミュニティの強みを維持・活用しつつ、生活利便性の確保を図ることが求められる。また、世代ごとにWBの構成要素が異なることから、画一的な施策ではなく、ライフステージに応じた多様なアプローチが必要である。

【参考文献】1) 前野隆司, ウェルビーイングと何か, 情報の科学と技術, 2022, 72, 9, p.328-330 2) デジタル庁 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート: 地域幸福度 (Well-Being) 指標利活用ガイドブック, 2024, ([https://www.sci-japan.or.jp/vc-files/images/LWC/guidebook\\_v2023-03.pdf](https://www.sci-japan.or.jp/vc-files/images/LWC/guidebook_v2023-03.pdf)), 最終閲覧日 2026-01-07

【注】1) 14は夕張市独自の追加設問である。2025年のWB指標における「公共交通の移動に不便がない」という設問を全国・道内平均の比較に用いた。

表3 地域幸福度（Well-Being）指標に分類したヒアリング結果の要約

番号	ヒアリング結果
1	30代:救急搬送時、合計2時間移動しずっと不安だった。40代:今後の夕張にあってほしいものは病院の小児科、子どもが倒れたとき長時間移動した。70代:居住継続には病院へのアクセスが必要。市民病院が若菜にあり南側の人がアクセスしづらい。
3	10代:衣料品は市外に行く必要があり、交通費が負担。40・50代:車やネット購入で大きな不便はない。ガソリンスタンドやコンビニの少なさが課題。60・70代:実物を見て買いたい。徒歩圏に店がある地域は便利だが、アクセスが困難。80代:買い物自体が困難で宅配に頼る。
8	10代:運動はスポーツセンターで行えるため不便は感じていない。放課後にまち中で友人と遊ぶ場所がない。20・30代:家や職場以外に、余暇を過ごせる居心地のよい場所が欲しい。市内には娯楽施設が少ないが、休日の市外への外出に充実感を感じられる。日常の楽しみは自身が開く英会話教室。野球場へ1時間以内で行ける点が良い。40・50代:冬季の運動環境として、スポーツセンターやスキー場が残ってほしい。運動が好きでバレーサークルの活動が日常の幸せ。60・70代:趣味の発表や映画鑑賞が開けるりすができてから、生活が少し良くなった。以前は観光地や休日に出かける場所があったが、現在は選択肢が少ない。80代以上:友人と行く清水沢の Snackbar でのカラオケが日常の幸せ。
12	10代:バス通学の生徒は自宅が遠く、放課後に遊びにくい。バス停からの友人との登校時間が日常の幸せ。
14	10代:夕張に戻ってくるときに交通が改善されていると良い。車がないと移動が難しい。路線バスやスクールバスは、停留所以外でも子どもを降ろしてくれることがある。20代:車があれば日常生活に大きな不便はない。50代:市外の高校に通う生徒向けの交通が居住継続に必要で、下宿費用の軽減や家族と暮らす期間の延長につながる。60・70代:居住継続に必要なものは交通。病気が高齢で運転できなくなり、路線バス、電車、タクシーは本数・台数が少なく不便で、デマンドバスは前日までの予約制で急に使えない。外出は18時までに終える必要がある。気軽に市外へ行けなくなった。通院では必ずデマンドバスの最終便を予約する必要がある。通えないため趣味の習い事をやめた。月3回運行される高齢者向け無料バスで市外へ買い物に行く。 80代以上:買い物や外食に困っている。知人の送迎に頼ることがある。
21	10代:夕張では小動物と毎日触れ合える。家の外に少し出ただけで美しく見える星空が夕張の魅力。人に勧める夕張の魅力として自然を挙げるが、特別に自然が好きという意識はない。動物の鳴き声や姿を聞いたり見たりするときに、自然の豊かさを実感する。20代:川で釣りを楽しめる。40・50代:四季の変化や自然の生命力、生き物とのつながりを感じられる点が、居住継続の理由。動物の連帯や食物連鎖を日常の中で見られることが夕張の魅力。60・70代:自然の豊かさが夕張の魅力。山菜採り、星空、鹿を楽しむ。夕張岳登山や冷水山散策が日常の楽しみ。
27	10代:友達と一緒に過ごす時間が幸せ。人が優しくあたたかいところが夕張の魅力。顔見知りが多いため自然と仲良くなれる。祖父母の知人にも家族のように接してもらえる。人がおおらか。20・30代:地域コミュニティができあがっており、子どもといるときに声をかけてもらうなど人とのつながりが居住継続の理由。外から来た人も、人と関わる場に出ることで夕張の人のあたたかさを感じ、幸せに暮らせる。40・50代:住民同士が互いのことをよく知っている。60・70代:長く住む人が多く顔見知りが多い点が夕張の魅力。人情が厚くおおらかな雰囲気がある。体調を気にかけて合ったり、食べ物に分け合ったり、気軽に家に招き合ったりする。サークル仲間からの連絡が日常の幸せ。80代以上:人の良さが夕張の魅力。
28	10代:高校の学校祭を通じて地域の人と交流がある。40・50代:町内会活動や地域の子どもの関わりを通じて、自分が地域の一員であると実感できることに日常的な幸せを感じる。60・70代:日常的な地域交流は多くないが職場の集まりに参加する。居住継続に必要なものは健康体操の集まりで、なぜならこれを通じて人と交流・運動をすることが日常の幸せだから。高齢者は複数のグループに入っている。今後の生活を充実させるために必要なものは、趣味や地域行事など、人が集まるきっかけ。祭りなどの地域行事に積極的に参加している。80代以上:体操クラブなどのサークル活動に複数参加しており、毎日活動している。
30	40・50代:夕張は助け合いの意識が強い町で、近所同士で道具の貸し借りや食べ物のやり取りを行う。60・70代:将来も助け合いながら暮らしたい。人のつながりが強く、困ったときに助け合い、すぐに駆けつけてくれるところが夕張の魅力。80代以上:日常的に近所の人やサークル仲間が車を出してくれる。地域の人が、緊急時に病院へ送ってくれたり転倒時に助けてくれたり。
38	50代:家族全員が健康で、日常生活を送れていることを幸せと感じる。特別な楽しみはなくても、問題なく健康に60歳を迎えたい。60・70代:病気を経験してから、体の変化を強く実感している。何とか生きている状態だから、幸せは感じない。自分や家族が元気で、普段通りに暮らせることが幸せ。夕張には健康維持のための散歩を、人目を気にせずできる環境がある。80代以上:健康だからこそ、健康体操や集まりに参加でき、そのことが幸せ。
42	10代:大学があれば、夕張に住み続けたかった。夕張高校の短期留学には市の全額支援があり、それを目的に同校へ進学した。夕張高校で取り組みたいことは、夕張の特産品を活用した商品開発。50代:高校進学をきっかけに、子どもが市外の高校の寮に入ったり、家族で転居したりするケースがある。60代:都会に比べ刺激の少ない夕張で過ごしたことで、自ら学び考え思考を更新する重要性に気づいた。

\* 北海道大学大学院工学院 修士課程

\*\* 北海道大学理事・副学長/大学院工学研究院 教授 博士(工学)

\*\*\* 札幌市 工修

\*\*\*\*北海道大学大学院工学院 修士課程

\* Master Course, Graduate school of Eng., Hokkaido Univ.

\*\* Executive Vice President, Hokkaido Univ., Prof., Dr. Eng.

\*\*\* Sapporo City Government, M. Eng.

\*\*\*\* Master Course, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ.